

# 学生国際協力団体

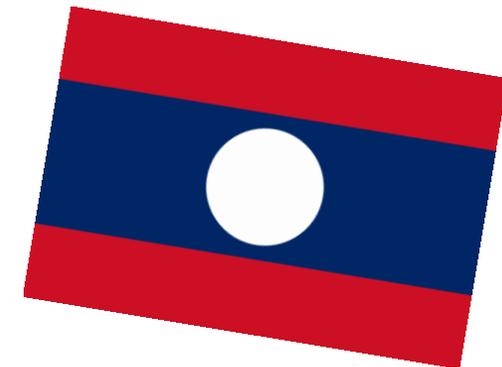
CHISE

## 活動報告

2025年2月15日

SDGs HYOGO 青年チャレンジ事業 活動報告会

# CHISEとは？



ラオスでの校舎建設をはじめとした教育支援を行っています。

# CHISEの活動

## ラオスでの教育支援

オリジナル授業  
学校インタビュー  
村人訪問  
学校建設

年2回

×

## 日本国内での活動

ミーティング  
街頭募金  
講演会  
イベント参加

## CHISEの取り組みに該当するSDGs目標

1 貧困をなくそう



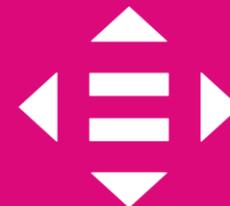
4 質の高い教育をみんなに



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



10 人や国の不平等をなくそう



17 パートナーシップで目標を達成しよう



# 写真展

9/21~9/29 @三宮OPA



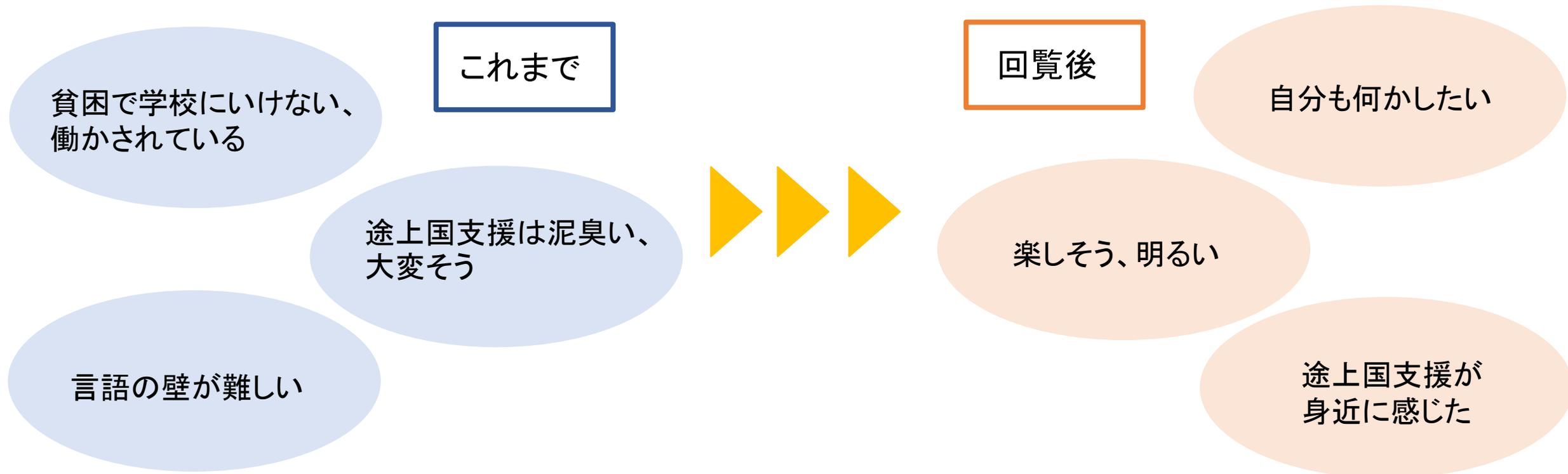
2/8~2/9 @神戸マルイ



# 活動の成果

じっくりと奥まで写真を見てくださる方は少数であったが、大学生が途上国支援の活動を行っているということを不特定多数の方に知ってもらうことはできた。

## アンケート結果



# 活動の成果

Instagramフォロワー数

約**40**UP 

募金総額

**13,642** 円

これからも伝える活動は行っていき、  
私たちの活動や途上国支援について知ってもらう機会を増やしたい。

# 街頭募金

三ノ宮、元町を中心に実施  
年間15か所を計画



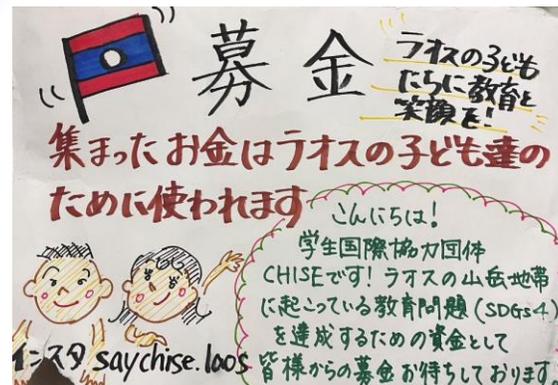
13か所で実施  
募金総額 77,832円



篠山産業高校の  
生徒さんが募金に  
参加してくれました



集まった募金は  
ラオスの子どもたちの  
支援に充てます



ラオスでの活動について質問して下さる方や  
応援して下さる方がたくさんおられました!

# ステーションナリードライブ

兵庫県立大学環境人間キャンパスで  
1月16日(木)実施

たくさんの文房具、おもちゃ、  
服が集まりました



3月の現地訪問で自分たちの手で  
直接子供たちに届けます！



ラオスの貧しい村で子どもたちの教育支援に取り組み、学生国際協力団体「CHISE (チーズ)」のメンバーが3月上旬、現地を訪れる。団体には県立大環境人間学部(姫路市)や関連する西学院大(西宮市)の学生らが所属。同学部内で募った文房具などを現地の学校に寄付し、住民らとの対話で今後必要とされる支援のニーズを把握したいという。同団体は2009年に設立。神戸での募金活動など、資金を集め、ラオス北部のルアンパーン県の村で学校校舎の建設を実現してきた。2022年6月、23年10月には、未就学児にラオス語を指導する教室を資金面で支えた。

3月はメンバー12人が、昨夏の洪水被害で学校が浸水した地域や同団体が学校建設に携わった村などを訪問する。顧問を務める同学部の乾美紀教授(55)は「支援が一方的なだけではいけない。学生らが現地の住民と膝を突き合わせ、ニーズを探ることが大切だ」と意義を強調する。

同団体は1月24日まで、県立大姫路環境人間キャンパス(姫路市新在家本町1)で鉛筆やノート、折り紙などを募る。副代表の尾内夏歩さん(21)「同学部3年間は「貧しく、文具を買いに街まで行くのも遠い地域を訪れる。大切に使うってほしい」という学生の気持ちも一緒に届けたい」と話した。

(田中宏樹)

神戸新聞(2025/1/22)と兵庫県立大学Instagramに  
掲載していただきました

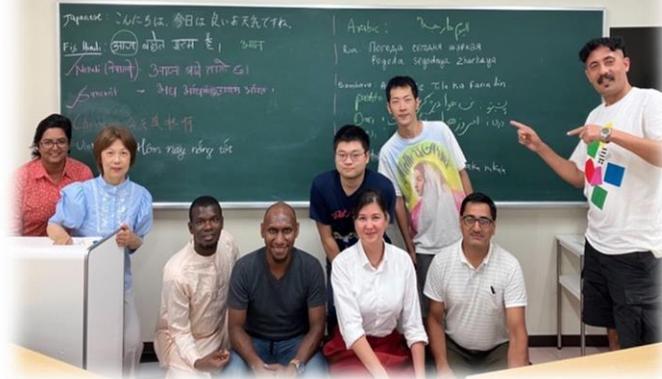
# 講演会・イベント参加

CHISEの取り組みを  
SDGsの目標と関連させて紹介

訪問先

姫路市立置塩中学校  
兵庫県立大学  
鳴門教育大学  
JICA

クイズやグループワークを用いて  
“自分たちに出来ることは何か”  
を考えてもらう



伝える活動としてイベントでの展示や  
学際への出店を行っています



# まとめ・反省

本事業に採択して頂いたことで SDGs について改めて考えながら活動することができた

ミーティング  
現地訪問

写真展

- ・「伝え方」の重要性について考えさせられた
- ・誰に向けてのイベント開催かによって開催場所も重要だと感じた。
- ・想定よりも来場者が少なかったため、何か体験コーナーなどを用意しておけば興味を持ってもらえたのかもしれない

街頭  
募金

- ・不特定多数の人々にほんの少しでも活動を訴えかけることができた
- ・来年度の校舎建設費用を工面するため募金を行っていたが、計画が不透明だったため、はっきりと用途を伝えられなかった

これからも「ラオス現地での学び」と「兵庫県での SDGs 啓発」のサイクルを意識し活動をより豊かなものにしていきたい

ご清聴ありがとうございました